メッセージ　7

選ばれ、対処され、砕かれる

聖書：創 25:22-23．31:38-41．32:22-32．34:30

Ⅰ．ヤコブは神によって選ばれました。ですから、ヤコブにおいてわたしたちは神の選びを見ます――創 25:21-26．**ローマ** 9:11：

Ａ．神はヤコブを愛し、彼を選びました――13 節．マラキ 1:2．エペソ 1:4．2:4。

Ｂ．ヤコブは生まれる前に、世の基が置かれる前にさえ、選ばれました――創 25:22-23．エペソ 1:4：

１．ヤコブは神によって選ばれました。それは、彼自身の行ないから出たものではなく、彼自身の奮闘や争いの結果でもありませんでした――創 25:22-23，26。

２．ヤコブが選ばれたことは、召す神から、神のあわれみから、神の恵みからでした――ローマ 9:11。

Ｃ．ヤコブと同じように、わたしたちも世の基が置かれる前に選ばれました――エペソ 1:4．Ⅱテサロニケ 2:13．ヨハネ 15:16 前半：

１．キリストは領域であり、その中でわたしたちは神によって選ばれました――エペソ 1:4。

２．神は、彼の予知にしたがってわたしたちを選びました――Ⅰペテロ 1:2．ローマ 8:29。

３．神の選びは、彼の主権あるあわれみにかかっています。わたしたちは神によって選ばれた者たちとして、自分自身を彼にゆだねるべきであり、また、わたしたちが彼を喜ばせるようになるまで彼がわたしたちを導いてくださることを、わたしたちは信じるべきです――9:11-13，16。

４．過去の永遠において神がわたしたちを選んだことに続いて、神はわたしたちをあらかじめ定め、また神は時間の中でわたしたちを召しました――8:28-29．エペソ 1:5。

５．わたしたちは神の定められた御旨のために選ばれ、召されました――ローマ 9:11．Ⅱテモテ 1:9：

ａ．創世記第 1 章 26 節が啓示しているのは、神が人を創造した目的は、人が彼のかたちにおいて彼を表現し、また彼の統治権を持って彼を代行することであったということです。

ｂ．ヤコブに対する神の目的は、彼を対処して、ついには彼が造り変えられて神の王子となり、神のかたちを帯びて神を表現し、また神の統治権を行使して神を代行することでした。これが神の目標です――47:7，10。

Ⅱ．ヤコブの生涯は、神の対処を表す生涯です。ヤコブの神は、対処の神です――創 31:38-41：

Ａ．神は、ヤコブが一生、苦闘する生活をするよう定めました。彼は母の胎にいた時から彼の生涯の終わりまで、苦闘していました――25:22-26．27:1-29，41-46．28:1-5．29:1―36:43。

Ｂ．ヤコブの生活と経験において、わたしたちは神の対処を見ます――25:19―32:21：

１．神はヤコブの生涯の環境を、主権をもって案配しました。神の主権ある御手はヤ

コブの上にあり、彼を対処しました。

２．神がヤコブを対処したことは、神の刑罰ではありませんでした。そうではなく、その目的はヤコブを造り変えて、イスラエルとすることでした――28 節。

３．神の主権の下で、環境における苦難を通して、また神の直接的な対処を通して、ヤコブは造り変えられ、円熟して、イスラエルとなりました――35:10。

Ｃ．ヤコブの歴史は、聖霊の管理（取り扱い）の絵です――47:9．48:15-16 前半．ヘブル 12:9-11：

１．聖霊の管理は、聖霊がわたしたちの外側の環境において行なっていること、すなわち、彼がすべての人、事、ハプニングを案配していることを指しています。それらを通してわたしたちは取り扱われつつあります――ローマ 8:28。

２．神は聖霊の管理を通して、わたしたちの中にある旧創造の要素を完全に取り壊し、新創造の要素がわたしたちの中で建て上げられるようにします。

３．わたしたちの天然の命が聖霊の管理を通して対処されるとき、キリストはわたしたちの中へと構成し込まれます――ガラテヤ 4:19．エペソ 3:17 前半。

４．わたしたちの環境の中のあらゆる事とあらゆる人は、わたしたちの造り変えのために神によって用いられる主権ある手段です――ローマ 8:28。

Ⅲ．創世記第 32 章 22 節から 32 節は、ヤコブの生涯における、欠くことのできない極めて重要な経験を述べています。それは、彼が砕かれたことです：

Ａ．主がヤコブと格闘したことは、彼がいかに天然的であるか、また彼の天然の力がいかに強いかを、彼に暴露するためでした――創 32:24：

１．主は「ヤコブのももものつがい、腰の筋に触れ」ました（32 節）。ヤコブのももものつがい、腰の筋、すなわち、体の中で最も強い筋肉に触れたことは、ヤコブの天然の命、彼の天然の力に触れたことを表徴しています――25 節。

２．ヤコブは神によって砕かれた後、外側では彼は以前と同じでしたが、内側では彼の天然の命は対処されていました。外側の生活が主によって触れられたのではなく、内側の天然の力が主によって砕かれたのです――33:1-4．32:25，32。

Ｂ．ヤコブの経験がわたしたちに見せていることは、神がわたしたちの天然の命を砕かなければならないということと、神が徹底的な方法でわたしたちの天然の命に触れなければならないということです――22-32 節：

１．宗教の方法は、人の外側の振る舞いを変えることです。神のエコノミーにおける神の方法は、人の内側の命に触れて、彼の内側の存在を変えることです――Ⅱコリント 4:16。

２．主が、ある極めて重要な点においてわたしたちに触れるとき、わたしたちは足が不自由になり、わたしたちの内側の存在においてもはや同じであることはできません。その時から、わたしたちは足を引きずり、もはや完全ではありません――創 32:25，31。

Ｃ．あらゆる信者は、外なる人が砕かれることを経験する必要があります――ヘブル 4:12：

１．キリストが魂の監禁から解放されるために、わたしたちの外なる人は砕かれなければなりません――エペソ 3:16-17。

２．わたしたちの外なる人は砕かれて、霊が解放される必要があります――ヘブル

4:12。

3．わたしたちの内側から神の命が純粋に流れ出るために、わたしたちは砕かれなければなりません――ヨハネ 12:24-26．19:34．7:37-39．出 17:6-7：

a．Ⅱコリント第 4 章 12 節で語られているように、死がわたしたちの中で働くことが、わたしたちが砕かれることです。

b．主は、砕かれた器が生ける水の経路となることを必要とします。わたしたちは砕かれれば砕かれるほど、ますます神の命がわたしたちから流れ出ます――ヨハネ 12:24-26。

4．わたしたちの魂のあらゆる部分は、神によって砕かれる必要があります――マタイ 16:24-25：

a．魂が砕かれるとは、わたしたちがもはや思いを用いたり、感情を表現したり、意志を活用したりしないことを意味するのではありません――Ⅰテサロニケ 5:23。

b．わたしたちの思い、感情、意志は、依然として機能していますが、砕かれています。すなわち、対処され、征服され、わたしたちの霊に服従しています――Ⅱコリント 4:16．エペソ 4:23．Ⅱテモテ 1:7。

5．「極めて高価な膏油」を内容とする、「非常に高価で純粋なナルドの膏油の入った石膏の壺」を、砕く必要があります。それは、純粋なナルドの膏油が解き放たれて、その家が「膏油の香りで満たされ」るためです――マルコ 14:3．マタイ 26:7．ヨハネ 12:3：

a．壺（外なる人）が砕かれなければ、純粋なナルドの膏油は解き放たれることができません――マルコ 14:3。

b．わたしたちは自分自身を保護して、壺を膏油よりも尊いと見なすべきではありません。わたしたちは、自分の外なる人が自分の内なる人よりも尊いと考えるべきではありません――マタイ 26:7．Ⅱコリント 4:16。

c．もし外なる部分が砕かれなければ、内なる部分は解放されません。もしこれがわたしたちの状態であるなら、わたしたちには前進する道がありませんし、召会にも前進する道がありません――ヨハネ 12:3。

6．神がキリストにあってご自身をわたしたちの中へと建造し込む働きは、外なる人が砕かれることを必要とします――エペソ 3:16-17 前半。

7．砕かれることは、建造のために必要不可欠です――マタイ 16:18．エペソ 4:16：

a．召会が建造されるために、わたしたちは外なる人が砕かれることを経験する必要があります――2:21-22。

b．もしわたしたちが奉仕において他の人たちと組み合わされようとするなら、進んで砕かれる必要があります。砕かれなければ、組み合わされることは不可能です。

8．わたしたちはパウロと同じように、からだのビジョンの下で砕かれる必要があり、またわたしたちがからだの中で建造される唯一の道は砕かれることであることを認識する必要があります――使徒 9:1-31．エペソ 4:16。

©2026 Living Stream Ministry